

ぜひ紹介したい高校教員がいる。数年前に、私は茨城県つくば市にある独立行政法人教職員支援機構での「学校組織マネジメント」の研修に参加したことがある。参加者名簿を見ると、全国各地から約100名の参加があることがわかった。

福島県からは4名だった。名簿順で判断すると、私の左隣は、T高校のK教頭先生だった。研修初日は、生憎台風が上陸しており、私は台風と正面から突っ込むようにつくば市へと車を走らせた。無事に現地に到着し、指定された座席に座ると、左隣は女性の方だった。この時点では、この方がどれほどすごい方かは知る由もなかった。T高校の校長先生は、私がお世話になった方だった。K先生とその校長先生のことでお話をしたことを覚えている。

研修が進み、班ごとに分かれて演習に取り組むようになった。私の班は、私を含めて5名だった。東京の方、茨城の方、奈良の方、そして山口の方だった。山口に私は少し反応した。果たして会津の方だったらどうだったのだろうか。向こうの山口の方も福島には反応していた。だが、この山口の方はとてもよい方だった。

演習課題は、班のメンバーで一つの学校を取り上げ、その学校の3年プランを作成するものだった。私の班では、奈良の方の学校を取り上げることにした。演習が進み、いくつかの班が選ばれ、全体で発表することになった。

数班の発表が終わり、どれも勉強になるものだった。すると、福島県のK先生が班の代表として発表を始めた。やがて約100名いる広い会場の空気が変わった。話し方に切れ味がある。かといって、嫌みなほどのシャープさではない。説明がわかりやすく、的を得ている。キャッチフレーズのような言葉の使い方がうまい。話に力がある。まわりの人たちはうなるようにして聞いている。いや聞きほれていた。

K先生は、自分が教頭として勤務するT高校の現在の姿を「知識注入中心の旧来型の授業展開」「内向的・保守的な生徒集団・教師集団」「伝統に甘んじる風土」と一刀両断に切り捨てるかのよう言い放った。鋭い洞察力である。私はT高校のある市の人間なので、思わず心の中で「その通り」とうなずいてしまっていた。

ここからが違った。3年プランの中核に「学力向上によるブランド力UP」を据えた。そして、目指す姿として「21世紀型能力の育成」「社会の変化に対応できる“底力のある人材”の育成」「伝統と未来をつなぐ人材の育成」の3つを掲げた。そのための手立ても明確である。その場にいた方は、私を含めて「この人はいったい何者？」と思ったはずである。「本当に教員なのか？」と感じた方もいたはずである。

ビジョンが明確であり、選ぶ言葉も見事なのである。インパクトがあり、説得力もある。どんどん引き込まれていく。発表に無駄がない。慣れている。プレゼンが得意なのだろうか。この感じでは、きっと授業も分かりやすく、学習効果の高いものになっていることは容易に想像できた。

彼女の発表が終わると、それまでとは違った拍手が起こった。明らかに福島県に対する見方が変わった。彼女のおかげで福島県の株が上がった。おこぼれで私に対する見方も多少ではあるが変わったように感じた。

彼女とは一緒に勤務したことはない。授業も見たことはない。それでも、数分間の発表で彼女がどんな方かは分かる。この発表には練習するための時間などはなかった。その場でいきなりの発表だった。それでも見事に役割を果たしていた。機会があれば、ぜひ一緒に勤めたい方である。きっと彼女から多くのことを吸収し、成長できると思うのである。

その後も、私が高校に勤務するようになったせいか、直接お会いしたり、電話でお話をしたりする機会に恵まれている。これも不思議な縁である。つくばでは、単なる偶然かと思っていた出会いであったが、どうやらそうではなかったらしい。K先生のあの発表は忘れることはないであろう。それほど見事な、うなるような感服させられるものだった。